

南の風 62

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号で「オープンスキル」について触れました。繰り返しますが、小中の時代に状況判断を伴ったオープンスキルを身体に刷り込ませることは、集団技能（アウトナンバーの状態や2対2～5対5）の基礎を理解させるためにも極めて重要です。

《例》 ①対人のプレイ ②目的のあるスクリメージ ③ゲーム形式

これらを練習の中に計画的に入れることが、オープンスキルの定着に役立ちます。

さてここで、話の視点を少し変えます。

私が教員時代に、授業（体育）でバスケットボールを教材として教えていた時の話です。

初心者の子どもたちにとって、一番難しいオープンスキルは何と言っても、「**動き方**」なのです。それもボールを持たない時に「どう動くか」なのです。ボールを持った時は、「シュート、パス、ドリブル」といった目的があります。できる、できないは別にして目的があります。

しかし、ボールを持たない時に子どもたちは困惑します。表れる状態としては、ボールを持った子のそばにいてボールを受けようとする。（ボールに集まってしまう）何もわからず突っ立って見ている。あるいはボールから遠ざかってしまう。「**どう動いていいか**」がわからないのです。

ボールを持たない時の動きを、例示し説明しながら実際にやらせます。もちろんすぐにはできません。さらにディフェンスがいると、なおさらわけがわからなくなってしまいます。学校で指導するバスケットボールの総時間は、大体8～12時間扱いです。（1単位時間は45分）教師の教材研究と指導力が問われます。

もちろんミニバスのプレイの質とは比較にはなりません。しかしこの時間数の中で、子どもたちに「バスケットボールの運動の特性」に触れさせて、楽しませなければいけないのです。

話を戻します。皆さんもご承知のように、バスケットボールという競技は、ボールを持たない時間が長いのです。その時に**状況を素早く判断して動く**ことが、チームとして、あるいは個人として重要なスキルになります。

バスケットボールは判断力のゲームだと言われます。オフボールの時に、ディフェンスの状態や状況に対応して、各自が判断して動くことがプレイを成功に導きます。

最後に、オフボールマンの動き方の基本に触れます。大切なことは、ボールマンの得点のチャンスを邪魔しないように、**スペーシング**することです。例えば、5アウトや3アウト2インで攻める場合、トップポジションのガードがドリブルドライブしたとします。ボールサイドのウイングはドリフトしてコーナーに進みます。ボールサイドのローポストは、邪魔にならないように逆サイドにサークルします。ウイークサイドのウイングは、トップのドリブルに合わせて、リブレースします。ウイークサイドのローポストは、エルボーに上がります。このようにボールマン以外の4人は、立ち止まることなく適切に動きます。（スペーシング）お互いが一定の距離を保ってタイミングよく動き（ミニバスの場合5m程度）、ドライブに合わせることで得点のチャンスが生まれます。これもオープンスキルです。